



# 青森農研フラッシュ

研究成果

(地独)青森県産業技術センター・農林部門

## 安定した玄米品質、食べ方はいろいろ

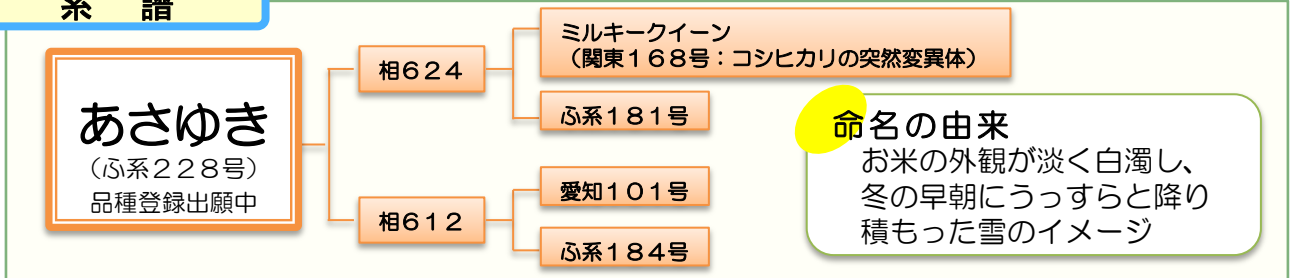
### —低アミロース米新品種「あさゆき」—

農林総合研究所

「あさゆき」は、熟期が「中生の早」で、**耐冷性・耐病性などの特性が優れた低アミロース米品種**です。  
**アミロース含有率が安定**しており、従来の「ねばりゆき」に替わる品種として平成27年に県の認定品種に指定されました。現在、品種登録出願中です。

※農林水産省「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」を活用しました。

#### 系譜



#### 命名の由来

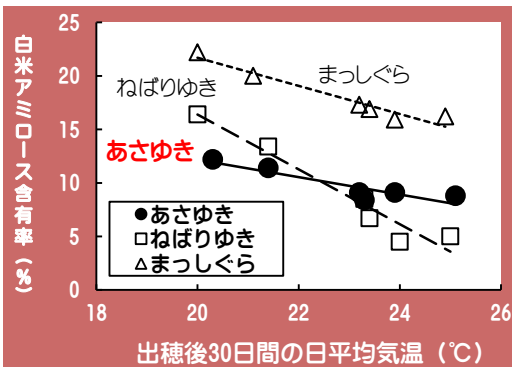
お米の外観が淡く白濁し、冬の早朝にうっすらと降り積もった雪のイメージ

#### 栽培特性

農林総合研究所・藤坂稲作部(十和田市)での試験成績(平成20~25年)

品 種 名	出穂期	成熟期	耐倒伏性	いもち病抵抗性		耐冷性	穂発芽性	収量 (kg/a)	白米アミロース (%)	玄米タンパク質 (%)
				葉	穂					
あさゆき	8月3日	9月15日	中	やや強	強	強	難	58.3	9.8	7.5
まっしぐら	8月4日	9月17日	強	強	やや強	やや強	難	60.0	18.1	7.3

#### 安定したアミロース含有率と玄米品質



〈平成25年〉  
登熟気温  
21.4°C

〈平成24年〉  
登熟気温  
23.3°C



「ねばりゆき」は、登熟気温が高いと低アミロース化が進み、外観がもち米のようになりますが「あさゆき」は変動が少なく、玄米品質も安定しています。

#### 炊飯米の特性と使い方

##### 低アミロース米の特徴

そのままでも 冷めても **おいしい** 冷凍→自然解凍でも 混ぜにしても

##### 「あさゆき」の特徴

外観品質 **安定** アミロース含有率



#### お問い合わせ

農林総合研究所・藤坂稲作部 (Tel.0176-23-2165)

# 公共牧場における 飼料用トウモロコシ栽培について

畜産研究所

本県の公共牧場は全国第3位の面積を誇りますが、肉用牛の飼養形態が「放牧」から「舎飼」に変化し、利用率は年々低下しています。そこで、公共牧場を飼料生産基地として活用するため、高標高(500m程度)での飼料用トウモロコシの適品種を検討したので紹介します。

## 試験地及び品種

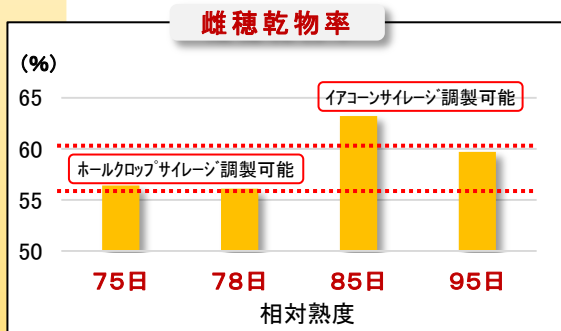
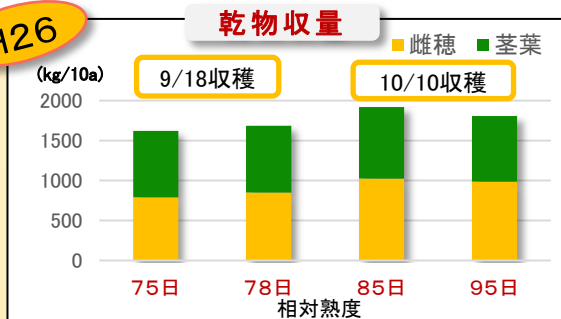
項目	内容
試験圃場	湯の平牧場(十和田市) 標高476m 北緯40.36度
播種期	平成26年5月20日、平成27年5月27日
使用品種及び 栽植本数	極早生品種(相対熟度(RM)100日未満): 8,080本/10a 早生品種(相対熟度(RM)100~110日): 7,017本/10a

相対熟度：発芽から収穫期までの日数で示される、相対的な早晩性の単位



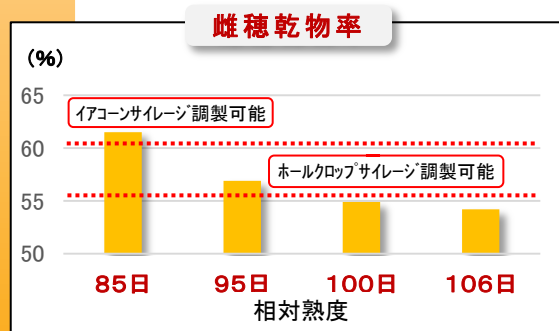
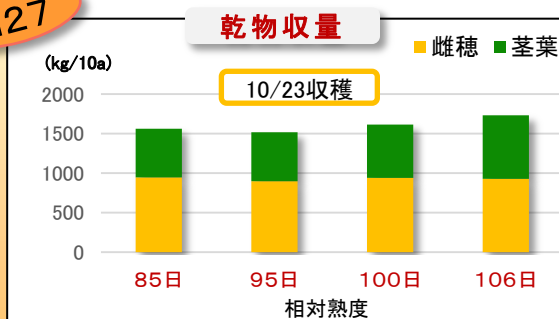
## 結果

H26



アイコン：トウモロコシの雌穂

H27



ホールクロップ刈取適期：雌穂乾物率55%程度を目安  
アイコン刈取適期：雌穂乾物率60%程度を目安

## 高標高における適品種

高標高(500m程度)における  
利用目的別の相対熟度(RM)

### 利用目的

アイコン  
サイレージ

ホールクロップ  
サイレージ

### 相対熟度

95日以下の品種  
(雌穂乾物率 60%程度)

106日以下の品種  
(雌穂乾物率 55%程度)



お問い合わせ

畜産研究所 酪農飼料環境部 (TEL0175-64-2790)

# ヒメボクトウふ化幼虫の りんご樹体への食入防止法

りんご研究所

りんごやなしの枝幹を加害する害虫である、ヒメボクトウによる被害を減らすための方法の一つとして、ジアミド剤(「フェニックスフロアブル」4,000倍、及び「サムコルフロアブル10」5,000倍)散布によるふ化幼虫の食入防止法を検討したところ、高い効果があることが明らかになったので紹介します。

## ヒメボクトウの被害

成虫は粗皮の下などに卵塊を産みつけ、そこからふ化した幼虫が樹幹内部に食入する。

幼虫は主幹、主枝、垂主枝などに食入、集団で内部を加害する。



枝幹内部を加害する幼虫



被害部からの木屑の排出

被害を受けた枝は衰弱し、やがて枯死

## 食入防止のための ジアミド剤の散布時期

成虫は  
7月中旬～  
8月上旬に  
発生

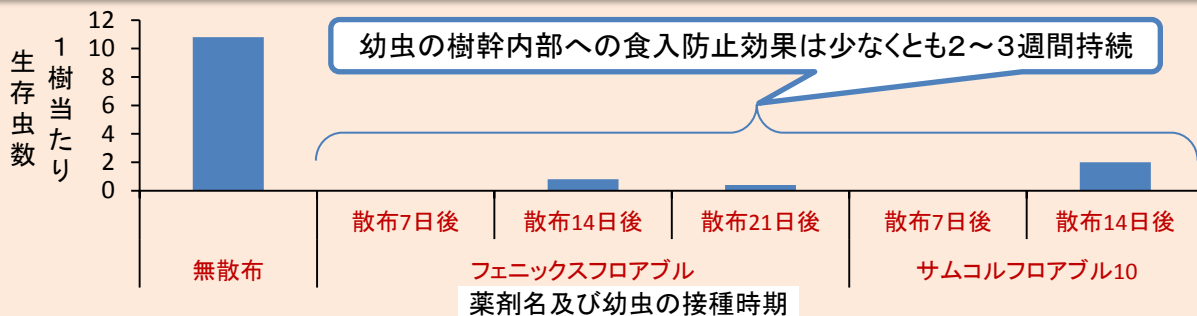


成虫

フェロモントラップによる雄成虫の誘引初発日、終息日

調査年	総誘引数	誘引初発日	誘引終息日
2007年	21	7月12日	8月6日
2012年	27	7月16日	8月4日
2013年	22	7月18日	8月16日
2014年	29	7月8日	8月2日
2015年	5	7月14日	8月3日

成虫の誘引初期で、幼虫が樹幹に食入する前の「7月半ば」の時期にジアミド剤を散布



## ジアミド剤散布によるヒメボクトウ幼虫の食入防止効果

供試薬剤を散布して7～21日経過後、ヒメボクトウ幼虫を1樹当たり20個体接種(1区5樹供試)。接種30日後に樹を解体して、生存幼虫の数を数えた。

## 注意 点



この方法は、ふ化幼虫の食入を予防する方法です。  
(すでに樹幹内部に食入した幼虫を駆除する技術ではありません)

## お問い合わせ

りんご研究所 病虫部 (Tel.0172-52-2331)

# スギ樹皮を有効活用した ハタケシメジの野外栽培

近年、青森県内におけるスギの伐採量は増加傾向にあります。製材所や木材チップ工場では、加工の際に発生する**大量の樹皮(バーク)の処理が課題**となっています。

このバークの有効活用と、きのこの生産拡大を目指し、未利用のバークを活用した**ハタケシメジの野外栽培試験**を行いましたので、その内容を紹介します。

## 栽培試験の概要



栽培試験協力: 平内町藤沢地区町内会

## 試験の結果

### きのこの発生状況

バークを活用した栽培可能



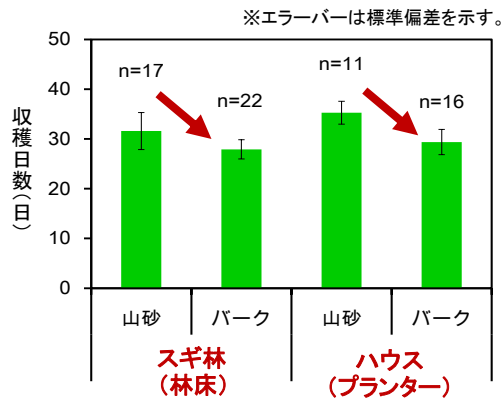
山砂、バーク共に発生割合100%

伏せ込みは9月下旬頃まで可能

課題 山砂やバークがきのこに食い込んだ

### 収穫までの平均日数

山砂よりバークの方が早く収穫可能



平均収穫量は...

収穫量の比較は違いが不明瞭

山砂やバークがきのこに食い込んだため、重量測定に影響した

## 今後の方向

きのこへの資材の食い込みなど課題を整理して、栽培方法の改善を行い、販売可能な品質を目指します。

## お問い合わせ

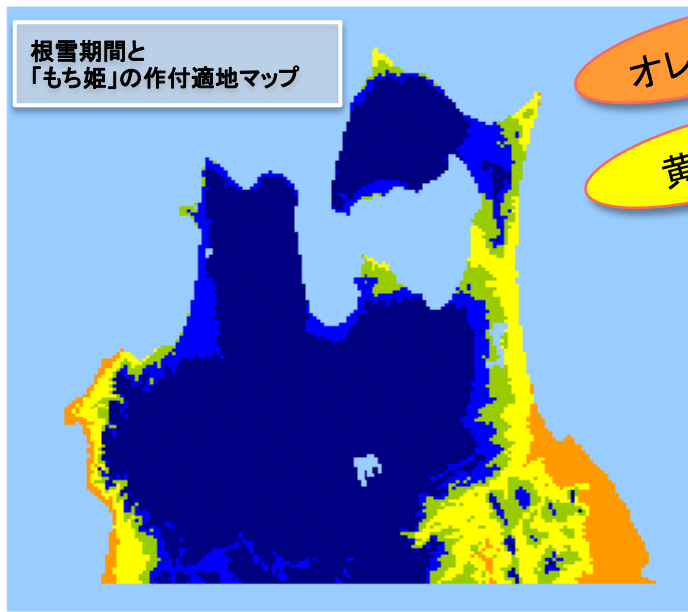
林業研究所 森林資源部 (TEL017-755-3257)

# 小麦品種「もち姫」の 栽培マニュアル完成

野菜研究所

小麦品種「もち姫」は、平成23年から青森県産地品種銘柄として指定されています。  
本品種の長期積雪期間(根雪期間)から見た作付適地、コンバインでの収穫適期を明らかにし、  
その結果を栽培マニュアルにとりまとめたので紹介します。

## 根雪期間から見た「もち姫」の作付適地



根雪期間と  
「もち姫」の作付適地マップ

オレンジ色

黄色

根雪期間からみた  
栽培適地

↓  
オレンジ色及び  
黄色の地帯

根雪期間(日)

- 平年値が90日超過
- 3年に1回 90日超過
- 5年に1回 90日超過
- 10年に1回 90日超過
- 10年間 90日以下

## 子実水分と品質からみた 「もち姫」のコンバイン収穫適期

出穂後積算気温で

**890～960℃**

「ネバリゴシ」より、70℃程度多い。

## 子実水分低下の特徴

登熟期間中の子実水分

水分45%までは緩やかに減少

水分45%を下回ると、  
減少程度が大きくなる

もち小麦品種  
「もち姫」  
栽培等マニュアル



(地域) 青森県産業技術センター野菜研究所  
(協力) 公立青森大学農畜食品学部  
もち小麦実用技術開発会

「もち姫」の栽培マニュアル

お問い合わせ

野菜研究所 品種開発部 (Tel0176-53-7171)